

- 世界的に半導体需要が高まる中、TSMCの県内進出を契機に、県内には多くの半導体関連企業が進出・集積。半導体関連人材の育成及び確保が喫緊の課題。
- 県は、DX・半導体関連人材の育成など社会の要請に合わせた教育内容の質的向上等を内容とする中期目標を定め、県立大学へ指示。
- 県立大学と県で連携して検討し、半導体関連産業人材の育成による持続的な経済発展やイノベーション創出に貢献するため、県立大学に半導体関連人材を育成する半導体学部(仮称)の開設を目指すこととした。

1 背景・課題等

半導体業界全体の人材不足

- ・半導体産業の高性能化の歴史は新産業・ニーズの創出と連動。次世代半導体の実現に向けても、新たなユースケース開拓や、新産業を創出するスタートアップが重要。(経済産業省「半導体・デジタル産業戦略」)
- ・九州において今後10年間で年間1,000人規模で不足。(九州半導体人材育成等コンソーシアム)
- ・長期間雇用可能な地元密着型の人材が欲しい。(県内半導体関連企業)
- ・「人材不足。プロセスというよりも幅広く素養のある人材が欲しい。」(県内半導体関連企業)
- ・「このままでは人材が枯渇。前工程の人材だけではない。」(県内半導体関連企業)

『くまもと半導体産業推進ビジョン』

「半導体インフラを支え、挑戦し続ける熊本」実現のため、3つの方針の1つとして「安定した半導体人材の確保・育成」を掲げている。

2 これまでの県内における人材育成体制の強化

熊本大学:半導体デバイス工学課程、情報融合学環(R6)
県立技術短期大学校:半導体技術科(R6)
水俣高校:半導体情報科(R7)
開新高校:半導体情報コース(R6)

3 方針(案)

令和7年6月から、学内に設置した検討委員会において、半導体関連人材の育成に係る教育環境整備に向けた検討を重ね、次の方針(案)を作成。

【方針(案)】

- 養成する人材像……………半導体に関する専門知識と技術ならびに半導体に関わる様々な分野についての横断的な知識を修得し、実践的な教育と研究を通じて、地域社会および国際社会の発展に貢献する人材
- 教育組織……………半導体学部(仮称)の開設
- 開設時期……………令和9年4月
- 定員……………60名/1学年 (※ 総合管理学部を60名/1学年減)
- 必要な施設(整備)……………現キャンパス内での整備。令和10年度までは既存施設で教育実施。
- 文部科学省への認可申請……………令和8年3月認可申請(予定)
- 教員体制……………16名

4 施設整備スケジュール等

	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
設計	●——●				
建築確認等		●——●			
建設工事			●————●		
設備設置等				●——●	
新施設供用					供用⇒

◀新施設の概要▶

- ・建物構造(想定):RC造5階建て(延床面積約6,000㎡)
- ・総事業費(想定):約37億円(設備費除く)